

## 新年のご挨拶

全労生議長 落合清四  
(UIゼンセン同盟会長)

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、鳩山新政権の発足、オバマ米国新大統領の就任など、政治の一新が見られた年でした。また、政治に限らず、裁判員制度や高速道路料金割引の実施など新たな制度や取り組みがスタートし、一方で新型のインフルエンザが流行するなど、さまざまな分野で「新」が見られた一年となりました。

今、社会・経済の枠組みが大きく変化しつつあり、今までの古い体質を破壊する動きと、新しい制度を創造する動きが同時進行しています。新たな時代に向けたパラダイム・シフトが起ころうとしている今こそ、いつの時代においても不変の原理である生産性三原則の今日的な意義を見つめなおす必要があります。生産性運動の根底にあるのは「昨日より今日、明日は今日より」という絶えず向上しつづける生産性の精神であり、これは、人々の信頼を基礎とした共同体やチームワークを基盤とする運動の中でこそ生まれてくるものであると思っております。

過去十数年にわたり、過剰なまでの市場原理主義や個人主義により、効率性や短期的成果が重視されすぎ、会社だけでなく、国家や個人を含めた共同体の理念や枠組みが失われつつあります。今こそ、この共同体のあり様を見直し、共生可能な雇用社会を作り上げていく必要があると考えます。そのためにも、自身の周辺のみを見るのではなく、すべての働く仲間と助け合うとともに、広く社会的な視点を持ち、生産性運動のインフラにあたる部分を整備しなければなりません。

昨年6月、全労生は50周年を迎え、「公正と効率を重んじる真の生産性運動の推進」「共生可能な雇用社会の実現」「社会的な視点を強化した運動展開」「未組織を含むすべての職場に労使協議の拡充」の4つを柱とした50周年宣言を発表しました。生産性運動、そして生産性三原則の今日的な意義の再確認と、今後の全労生運動の展開についての課題整理を行い、50周年宣言の具現化に向けた取り組みを推進していく所存です。

多様化とグローバル化が進展する今日において、不確実性はますます高まっています。この時代認識の下に生産性運動を考えていくことが重要となります。本年も生産性運動を労働組合の立場から推進する全労生の活動に対し、一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。